

一風変わった分析方法

ランチェスター戦略からの視点

ランチェスター戦略とは、元々軍事戦略として生み出されたものですが、後にビジネスに応用されることによって、多くの企業に成果をもたらした戦略モデルです。

ランチェスター戦略では、企業間での販売競争は市場占有率（シェア）によって勝敗が決まると考えられており、市場占有率が高ければ高いほど、好業績（＝高株価）が期待できるということになります。

この中で特に注目すべき数値は、73.9%、41.7%、26.1%の3つです。73.9%のシェアをもつ場合は市場を独占していると考えられ、41.7%の場合は相対的安定値で安全圏であるといわれています。そして26.1%を上回ってはじめて勝者と認識されるようになります。

ハリー・デントの経済予測モデル

アメリカのエコノミストであるハリー・デント Harry S Jr. Dent 氏が提唱した経済予測で、「46歳前後の人口の推移が、株価指数と同じ動きを示す」というものです。その理由は非常に単純で、そのぐらいの年齢の人が、一番消費量が多いからだそうです。そしてアメリカの場合、46歳の人口推移が、日本の場合47歳のそれが株価指数とほぼ一致することが確認されています。（資料）

70年周期説

これは、「歴史は70年毎に同じことを繰り返す」というものです。他にも60年説や80年説など多くの周期説があります。

例：1915年から始まった大戦景気 1985年のプラザ合意からはじまったバブル

1929年の世界恐慌 1999年のITバブル崩壊

1931年9月18日の柳条湖事件（満州事変、日中戦争の発端となった事件）

2001年9月11日のアメリカ同時多発テロ

参考文献：『ランチェスター戦略がマンガで3時間でマスターできる本』（2001）

田岡佳子（著）明日香出版社

『「金持ち大家さん」になるアパート・マンション経営塾』（2003）

浦田健（著）日本実業出版社